

2014年9月18日

「日本の農業、アフリカを変える」

日本流農業経営をアフリカへ！株式会社和郷と JICA が連携

国際協力機構(JICA)は、9月2日付で株式会社和郷(千葉県香取市)の提案する「小規模園芸農家のグループ経営力強化事業案件化調査」を仮採択しました。

ケニアでは、農業セクターが国内総生産(GDP)の約30%を占め、人口の約7割以上が携わる一大産業です。その大部分を小規模農家が占めますが、病虫害対策や水管理などの栽培技術が低く、質の高い作物を作れなかったり、市場に売るにも仲買人を頼るしかないと、安く買いたたかれたり、十分な収入を得られていませんでした。

こうした問題に対し、生産者の技術向上を含めた農業関連事業に豊富な経験を有する株式会社和郷が日本で培った栽培技術とグループ経営のノウハウをケニアの小規模農家に導入することで、対象農家の生産性向上を通じた生計向上を目指します。株式会社和郷は、農業生産者の自立を合言葉に活動し、生産者の技術向上、農業生産工程管理の取り組み、加工事業、販売事業、リサイクル事業と、農業を軸に幅広く事業展開している企業です。

本調査では、日本流の品質管理及び供給・販売体制の導入に加え、高品質なトマトをはじめとする高付加価値商品開発の普及に関する調査を行い、最終的には、ODA事業をきっかけとした日本流の品質管理及び供給・販売体制の導入研修事業及び高付加価値農作物の現地生産を柱としたケニア進出を目指す予定です。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2014年度は本年5月に公示を行いました。176件の応募のうち26件が仮採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。